



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

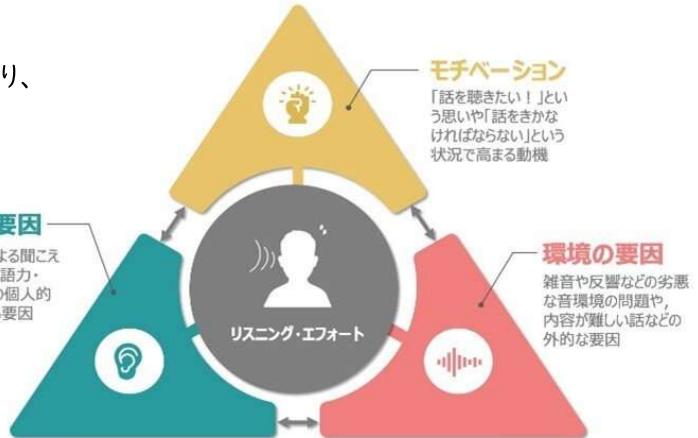
きこえに関わる疲れ～リスニング・エフォートとは～

1. リスニング・エフォートとは？

きき取りが難しい状況において、注意・集中を高めたり、
きき取れなかった内容を推測したり、聴覚以外の
認知機能も総動員して話を理解するような行為を
意味します。

2. 学校生活で見られるサイン

- 午後になるとぼんやりする／集中が続かない
- 返事が遅くなる、発言が減る
- 体育館や給食時間など騒がしい場所を嫌がる
- 下校後、強い疲れや頭痛を訴えることも



3. 学校でできる配慮

【授業】

- 板書やプリントで視覚情報を増やす
- 話す前に名前を呼ぶ
- 長時間の説明は区切って行う



【休み時間】

- グループ遊びでルール説明を文字やジェスチャーで補う

【行事】

- 体育館・運動場では補聴援助システム（ロジャーマイク等）を活用したり、視覚情報を示したりする

補聴器や人工内耳をつけていても、
雑音・反響・話し手の位置などにより
きき取りの負担は大きくなります。

4. 周囲に伝えたいこと

- 「聞こえている=楽に聞いている」ではありません。
- 疲れやすさは見えにくいため、本人が「疲れた」「きこえづらい」と言いやすい雰囲気づくりが大切です。

まとめ

聴覚障害のある子は、「聞く」だけで私たちが想像する以上にエネルギーを使っています。

見えない疲れを理解し、環境調整+休息+視覚情報でサポートしましょう。

参考：「CDC（コミュニケーションときこえのラボ）」のホームページ

<https://cdc.lab.ibaraki.ac.jp/>

